

## II 下方斜面における巡礼路の特定

### 1 要旨

- ▶ 山梨県・静岡県は、巡礼路の位置・経路の特定に加え、構成資産相互の歴史的な関係性を示すため、「富士山世界遺産センター」を中心として、関係市町村と連携を図りながら、巡礼路等に関する調査・研究を計画的に進めている。

  - ・山梨県総合学術調査研究報告書の刊行（2016年3月）
  - ・須走口登山道に関する調査研究報告書の刊行（2018年度内予定）
  - ・大宮・村山口登山道に関する調査研究の着手（2017年度開始）等

【参考資料1（P12）】
- ▶ 山梨県・静岡県は、来訪者が、『信仰の対象』と『芸術の源泉』の両面から構成資産相互のつながりを容易に認知・理解できるよう、調査・研究の成果を情報提供戦略や来訪者管理戦略へ計画的・段階的に反映させている。

  - ・富士山世界遺産センター等における企画展、シンポジウムなどの開催
  - ・調査研究成果を踏まえたパンフレットの作成、山麓の構成資産を巡るモデルコースやガイドツアーの設定等

【参考資料2（P21）】

### 2 戦略に記載した取組の方向性

#### （1）総合的な調査・研究の継続

##### ア 調査・研究の成果の取りまとめ

これまで山梨県・静岡県及び関係市町村が個別に実施してきた調査・研究の成果を取りまとめ、今後、どのような調査・研究を行う必要があるのかを検討し、調査・研究の対象等を決定する。

##### イ 長期間にわたる調査・研究の継続

長期間にわたり、古文書・絵図等の調査・分析、道路遺構の实地踏査・発掘調査等の調査・研究を計画的に実施し、その成果を系統的に取りまとめる。

##### ウ 調査・研究体制の確立・充実

山梨県・静岡県及び関係市町村双方が、調査・研究体制を確立・充実を図る。

#### （2）情報提供戦略等への反映

把握した「登山道・巡礼路の位置・経路」を、情報提供戦略に計画的・段階的に反映させる。

### 3 実施状況

#### (1) 総合的な調査・研究の継続

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
<p>巡礼路に係る調査研究を実施し、関連資料の収集・把握・充実に努め、調査・研究の成果を集約する。</p>	<p>山梨県は、第2期富士山総合学術調査研究(2012～2015年度)として実施した、富士山周辺の巡礼路の特定に関する研究成果を「山梨県富士山総合学術調査研究報告書Ⅱ」にまとめ、2016年3月に発行した。</p> <p>静岡県は、2015年に「富士山巡礼路調査委員会」を設置し、須走口登山道の調査を小山町と連携して実施しており、2018年度に調査報告書を刊行する予定である。2017年度からは、大宮・村山口登山道の調査にも着手している。</p>
<p>関係市町村が実施する調査・研究を集約し、必要に応じて指導・助言を行う。</p>	<p>山梨県は、関係市町村の文化財担当者を山梨県富士山総合学術調査研究調査員に委嘱し、市町村による調査・研究の成果を逐次集約している。</p> <p>静岡県は、専任の研究員が随時指導・助言を行うほか、関係10市町と連絡会を開催し、調査・研究など様々な項目について意見交換を実施している。</p>
<p>富士山世界遺産センターを中心とした調査・研究体制を充実させる。</p>	<p>山梨県は、山梨県富士山総合学術調査研究として、学芸員を中心に外部研究者と共同で富士山に関する調査・研究を継続して進めている。</p> <p>静岡県は、専任の研究員を中心に外部研究者と共同で、富士山に関する調査・研究を進めている。</p>

## (2) 情報提供戦略等への反映

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
<p>世界遺産ガイド等を養成し、パンフレット等を作成・活用するなど、効果的な情報提供手法を確立する。</p>	<p>山梨県・静岡県は、世界遺産ガイドのスキルアップを図るため、定期的に講座を開催している。また、巡礼路に関して、山梨県では、富士山世界遺産センターを中心に情報提供を実施し、静岡県では、調査結果を報告書に取りまとめるほか、シンポジウムの開催を予定している。</p>
<p>学習講座を実施するとともに、博物館・美術館等における企画展・研究発表会等を開催する。</p>	<p>山梨県は、これまでの巡礼路に関する調査研究の成果を一般に広く紹介するため、山梨県立富士山世界遺産センターにおいて、企画展「探訪 富士山巡礼路」を2017年1月から2月に開催するなど、企画展・写真展を通じた情報提供に取り組んでいる。また、世界遺産富士山講座や富士山総合学術調査研究シンポジウムの実施、研究紀要等の刊行を行っている。</p> <p>静岡県は、2015年度から実施している須走口登山道の調査研究成果を一般に広く紹介するため、2018年度にセミナーの開催を予定しているほか、研究員が実施している様々な調査研究成果を広く紹介するため、2017年度には、市町と共催による富士山世界遺産セミナーや、国内外の研究者を招聘した国際シンポジウム等の開催、「富士山の曼荼羅」と題した開館記念の企画展の開催及び英文誌の刊行等、様々な事業に取り組んでいる。</p>
<p>「登山道・巡礼路の位置・経路」に基づき、案内板・道標などの来訪者を誘導する方法を検討し、潜在化したルートを顕在化する。</p>	<p>山梨県・静岡県は、下方斜面における巡礼路の特定に関する調査・研究成果に着目し、「登山道・巡礼路の位置・経路」を踏まえ、山麓の構成資産を巡るモデルコースやガイドツアーの設定を行い、富士山麓への周遊を推進している。</p>

## ＜参考資料1＞巡礼路の調査・研究

### ■概要

静岡県は、これまで総合調査が実施されていない登山道及び山麓の構成資産間を結ぶ巡礼路の研究計画を策定するとともに、巡礼路等の調査を実施するため、2015年に考古学、歴史学、民俗学、美術史といった各分野の学識者で構成される「富士山巡礼路調査委員会」を設置した。

2015年から2018年度にかけては、小山町との連携の下に、須走口登山道の調査を実施し、2017年度からは、富士市及び富士宮市との連携の下に、大宮・村山口登山道の調査を開始している。

なお、調査結果は、報告書として取りまとめるほか、シンポジウムの開催や富士山世界遺産センターの企画展等で紹介するなど、情報提供戦略へと適切に反映させることとしている。

また山梨県は、富士山をめぐる自然と人との関わりを総合的に調査・研究する山梨県富士山総合学術調査研究を2008年から実施し、第2期（2012～2015年度）では、富士山周辺の巡礼路の特定を通じた各構成資産間の結びつきに関する研究を実施した。

さらに、2016年度から開始した第3期は、山梨県立富士山世界遺産センターが中心となり、「富士山文化の広がりに関する調査研究」をテーマとして、構成資産や巡礼路を拠点とした富士山の信仰文化の各地への普及・定着の変遷に関する研究を行う中で、巡礼路の未特定区間に関する調査・研究も継続実施している。

### ■取組内容

#### （1）須走口登山道

##### ア 調査内容（2015年度～2018年度）

静岡県は、文献収集（研究論文・刊行物等）、資料収集（歴史資料：古文書・古記録、民俗資料：古写真・絵葉書・信仰用具・御札類など）、旧御師や山小屋経営者などへの聞き取り調査、登山道の現地踏査、施設跡の測量などの方法により、考古、歴史、民俗、美術の各分野ごとに、須走口登山道の経路・位置の描出や須走地区の歴史的な背景について、調査研究を計画的に進めてきた。調査結果については、2018年度中に調査報告書として取りまとめるほか、セミナーや富士山世界遺産センターの企画展で情報発信を行う予定である。



須走口登山道における現地踏査



御殿場市宝持院での富士山下山仏調査

年度別・区分別調査概要

区分	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
考古	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤色立体地図等を利用して、馬返～古御嶽神社間の現地踏査でGPS データを採取し、登山道経路を確認し、調査図面に反映。</li> <li>登山道沿いの施設跡や石造物等の確認調査。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤色立体地図等を利用して、山頂～古御嶽神社・馬返～野中神社（旧大日堂）間の現地踏査でGPS データを採取し、登山道経路を確認し、調査図面に反映。</li> <li>登山道沿いの施設跡や石造物等の測量図面の作成。</li> <li>懸仏2体の実測図面作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分野の補足調査を実施(旧御師伝来の民俗資料の調査、御殿場市内の宝持院・久成寺に伝来する富士山下山仏の調査など)。</li> <li>報告書原稿の執筆。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告書の編集・刊行作業。</li> <li>セミナー・企画展の開催。</li> </ul>
歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>小山町史編纂時に製作した須走口登山道に関わる古文書・古記録のマイクロフィルムのデジタルデータ化を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>須走口登山道に関わる古文書・古記録の写真撮影。</li> <li>須走口登山道に関わる古文書・古記録の活字翻刻。</li> </ul>		
民俗	<ul style="list-style-type: none"> <li>須走口登山道に関わる旧御師や山小屋経営者への聞き取り調査、および民俗関係資料の写真撮影。</li> <li>富士浅間神社境内の石造物調査。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>須走口登山道に関わる旧御師や山小屋経営者への聞き取り調査、および民俗関係資料の写真撮影。</li> <li>野中神社（旧大日堂）の祭礼調査。</li> </ul>		
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>裾野市内の車返霊場に伝来の富士山下山仏の調査。</li> <li>小山町立図書館所蔵の須走口登山道に関わるコレクション資料の調査。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御殿場市内の大雲院・宝持院に伝来する須走地区旧蔵および富士山下山仏の調査。</li> </ul>		



## (2) 大宮・村山口登山道

静岡県は、須走口登山道と同様に、富士山巡礼路調査委員会において策定した研究計画に基づき現地踏査、資料調査などを計画的に進め、その成果を報告書として刊行するとともに、セミナー等を開催し、積極的に情報発信を行う予定である。

2017年度	2018年度及び2019年度	2020年度
●現地調査用図面の作成 →	●本調査（現地踏査、資料調査） → ●現地測量（石造物・施設跡） →	●補足調査 → ●調査報告書の編集・刊行 → ●セミナー開催 →

## (3) 御中道

### ア 調査内容

御中道は、富士山の中腹を周廻する巡礼路であり、富士講の修行の中で次第に固定化され、発展してきたが、幾筋もの沢を越えて進むため、各年代で大きく変遷してきたとみられる。

山梨県及び静岡県は、文献収集（研究論文・刊行物等）、資料収集（歴史資料：古文書・古記録、民俗資料：古写真・絵葉書・奉納物・御札類など）、登山道の現地踏査、施設や石造物等の調査などにより、御中道の経路・位置の描出やその変遷について、調査研究を進めてきた。

これまでの調査結果については、2017年度発行の「山梨県立富士山世界遺産センター研究紀要」に取りまとめた。

### イ 調査成果の概要

御中道の調査成果の概要を以下に示す。

- 最新の国土地理院発行の電子地形図を基本に、1887年測量の陸地測量部製作地形図、1928年測量の地形図等を重ね合わせるとともに、現地踏査の情報を加味して赤色立体地図を判読し、御中道のルートを図に示した（P16参照）。
- このうち、大宮・村山口から大沢に至る部分は、道の変遷が見られ、特に御中道の行程の中で最大の難所とされる大沢崩を渡る越場は大きく変遷しており、各種文献などから、かつて利用されていた、標高2800m付近の「一ノ越」は、大沢の崩落の影響で19世紀初めには利用できなくなっていたものとみられ、近代以降に「二ノ越」、「三ノ越」と呼ばれる越場につながる経路が開かれたとみられる。



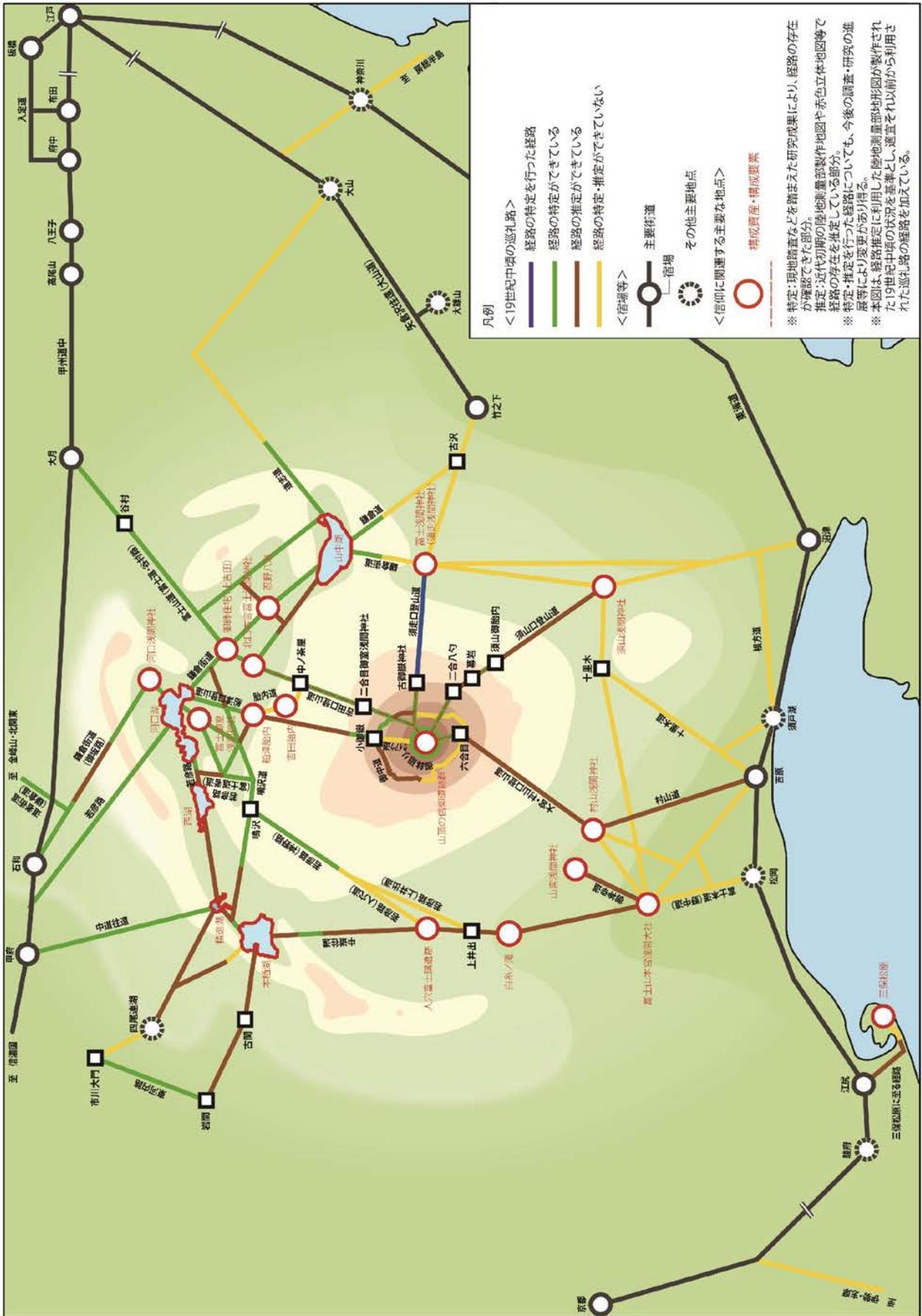
凡例

- 明治20年測量の二万分の1地形図から判読した道
- 昭和3年測量の二万五千分の1地形図から判読した道
- 赤色立体地形図から判読した道跡

0 500 1000 m

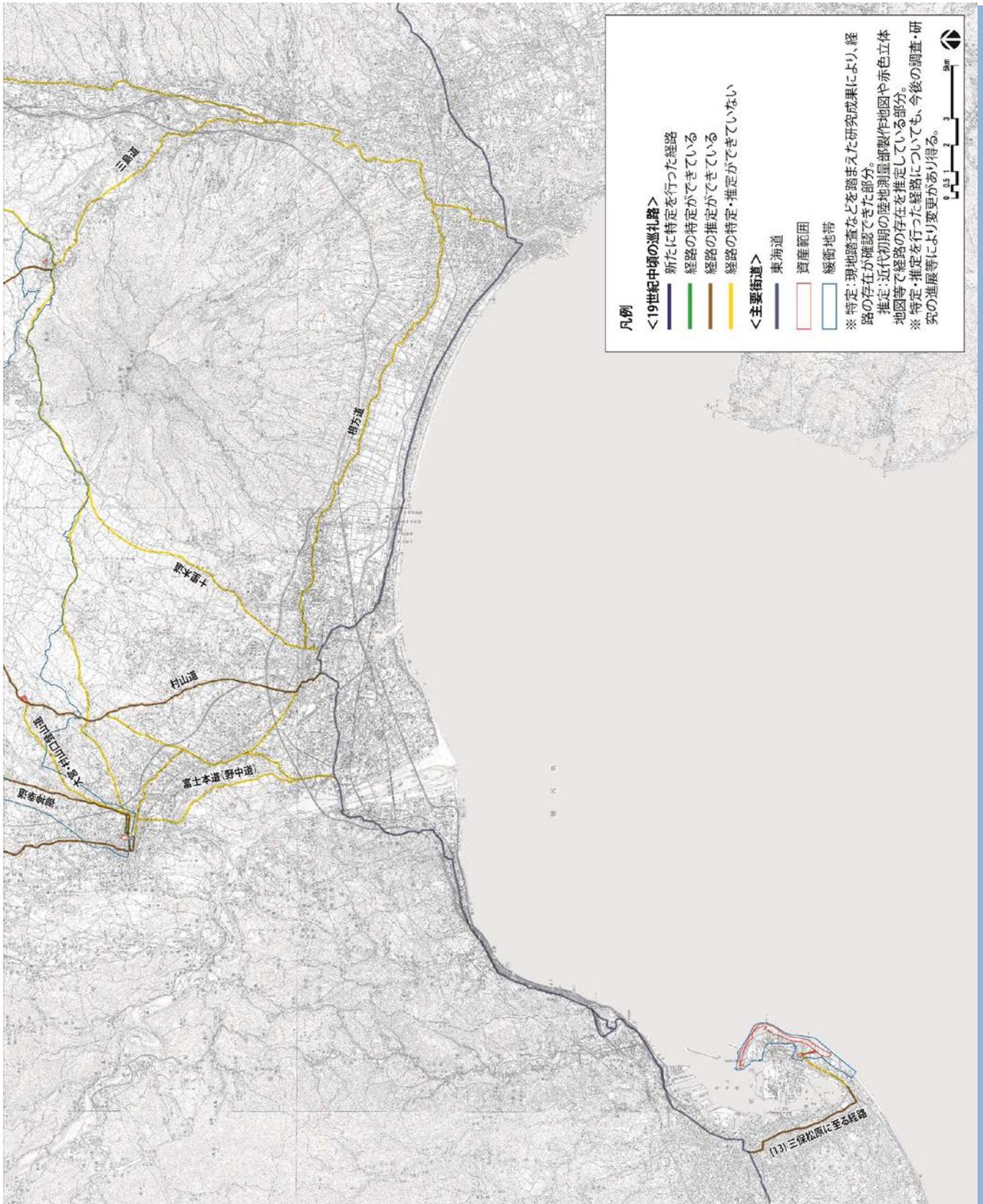


御中道調査地図 (「山梨県立富士山世界遺産センター 研究紀要」2017)



巡礼路概念図





19世紀中頃の巡礼路経路図

## ■今後の取組（計画）

当面は、須走口登山道の調査結果について、情報提供戦略へと適切に反映させるとともに、大宮・村山口登山道の調査を計画的に進めていく。

さらに、中・長期的には、山麓及び山腹の構成資産間を結ぶ巡礼路のうち、富士山頂へと至る登山道を中心に、主要街道から派生する巡礼路についても、順次計画的に調査・研究を進めていくこととする。

今後の巡礼路調査の対象として検討中の登山道・巡礼路の例

経路	概要	
すやまぐちとざんどう 須山口登山道	裾野市	須山浅間神社から富士山頂へと至る登山道。
みしまち 三島道	裾野市、三島市	東海道三島宿と須山口登山道の須山浅間神社を結ぶ。
じゅうりぎみち 十里木道	富士市、裾野市、御殿場市、小山町	東海道吉原宿から裾野市の十里木地区を通り須山地区へ至り、さらに須走地区（小山町）までを結ぶルート。
ねがたみち 根方道	富士市、沼津市	東海道吉原宿と沼津市岡宮浅間神社付近を結ぶ。
やぐらさわおうかん おおやまみち 矢倉沢往還（大山路）	小山町、御殿場市、裾野市、長泉町、沼津市	相模国から足柄峠を越えて、竹之下（小山町）へ至り、東海道沼津宿へ至るルート。
かまくらかいどう みさかじ 鎌倉街道（御坂路）	山中湖村、小山町	山中湖から県境を籠坂峠を越えて、須走地区（小山町）へ至るルート。
かまくらみち 鎌倉道	山中湖村、忍野村、小山町、御殿場市	山中湖から県境を三国峠を越えて、古沢（御殿場市）地区へ至り、矢倉沢往還に合流するルート。
ごじんこうみち 御神幸道	富士宮市	富士山本宮浅間大社と山宮浅間神社を終点で結ぶ毎年4月と11月の山宮御神幸の際の巡行道。
なかみちおうかん 中道往還	富士河口湖町、富士宮市	富士山の西麓を経由して、甲府盆地と東海道吉原宿（富士市）とを結んだ古代以来の主要道。
わかひこじ ひとあなみち かみいでみち 若彦路（人穴道・上井出道）	富士河口湖町、鳴沢村、富士宮市	精進湖・本栖湖から人穴・上井出（富士宮市）を経て、富士宮市の大宮町へ向かうルート。
おちゅうどう 御中道	鳴沢村、富士河口湖町、富士吉田市、山中湖村、小山町、御殿場市、裾野市、富士宮市	富士山の山腹の標高2100m～2800m付近を横へ一周する。幾筋もの沢筋をまたがるため各年代で変遷が多い。
みほのまつばら 三保松原に至る経路	静岡市	東海道江尻宿から駒越村まで久能山道を通り、そこから三保半島中程の御穂神社まで至るルート。
たいたいみち えちごみち むろみち 胎内道（越後道・室道）	富士吉田市、富士河口湖町	吉田口登山道の中ノ茶屋から吉田胎内樹型、船津胎内樹型に至る巡礼路。
なるさわみち 鳴沢道	鳴沢村、富士河口湖町、富士吉田市	本栖湖・精進湖から青木ヶ原樹海を横断し、鳴沢村を経由して上吉田（富士吉田市）へ向かう巡礼路。
うちほつかいみち 内八海道	富士吉田市、富士河口湖町、身延町、山中湖村	山麓の8つの湖沼（西湖・精進湖・本栖湖・山中湖・河口湖・泉瑞・明見湖・四尾連湖）を巡るルート（航路を含む）。

## ＜参考資料2＞巡礼路を活用した周遊促進

### ■概要

- ・登山者及び来訪者に構成資産相互のつながりを認知・理解してもらうため、巡礼路に関する調査・研究の成果に基づき特定または推定された巡礼路等を活用し、山麓の神社や霊地を巡るモデルコースの設定や巡礼者の受け入れ環境の整備などを行う。

### ■取組内容

- ・山梨県は、プロジェクト推進のため、市町村、構成資産所有者及び観光団体等で構成する組織を設置し、モデルコースの設定及びそれらを紹介するガイドマップの作成を行った。また、旅行会社担当者の視察受け入れ等を通じた旅行商品造成支援や「行衣」、「御朱印帳」などのグッズの開発・販売支援等を行っている。

#### 【かつての巡礼者が辿った巡礼路・構成資産の周遊(例)】



富士講信者が宿泊した  
「御師住宅」

登山前には水で身を清めた伝統に倣い、様々な水場を巡る



生まれ変わりを疑似体験する「胎内壱型」をはじめ、富士山の自然が生み出した様々な霊場を巡る

登山の成功を祈った  
「浅間神社」

山麓から続く「登山道」  
を巡る

#### 【周遊を支援する施設、ガイド、ツール】



ガイドデスク  
(世界遺産センター)

ガイドツアー

宿泊施設

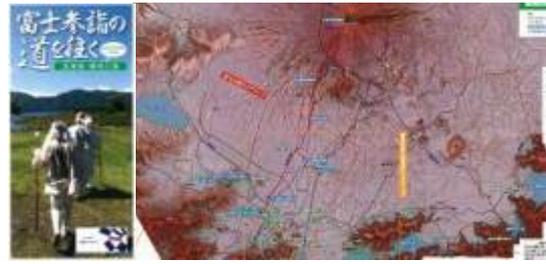
御師料理



行衣



御朱印・御朱印帳



ガイドパンフレット (モデルコース、解説)

・静岡県は、構成資産の歴史的つながりと巡礼路の変遷の理解促進などのため、様々なテーマごとにモデルコースを設定し、旅行会社に積極的にPRするとともに、ホームページを通じて幅広く情報提供している。2017年には、静岡県富士山世界遺産センターや周辺の構成資産を周遊する旅行会社向けモニターツアーを開催した。

モデルコース①「噴火と遥拝」 自然と富士山の偉大なる力を体感コース 1/2



山宮浅間神社 (鉢立石)



白糸の滝



富士山本宮浅間大社 (鉢立石)



静岡県富士山世界遺産センター

コース特徴	世界文化遺産「富士山」の構成資産を巡るとともに、自然・水・参拝・ニュースポット(静岡県富士山世界遺産センター (平成29年12月23日開館))等の要素で構成されたコース
<p>日帰りコース 日程</p> <p>行程表の表示                  ..... 主に徒歩による移動を想定                  ===== 車等による移動を想定</p>	<p>各地=====山宮浅間神社(社殿を持たない神社・遥拝所・鉢立石)=====</p> <p>※富士山を直接遥拝する遥拝所がある神社</p> <p>=====白糸の滝(名水百選・富士講の祖:長谷川角行修行の地)=====</p> <p>※雄大な富士山の雪解け水が流れ落ちる、いにしへの修験者の修行の地</p> <p>=富士山本宮浅間大社(全国1300余りの浅間神社の総本山・湧玉池・鉢立石)...</p> <p>※古代の噴火を鎮めたとされる神社と、その溶岩の間から湧く、美しい湧き水の池</p> <p>.....静岡県富士山世界遺産センター.....お宮横丁</p> <p>※1階から5階を繋ぐ螺旋スロープの壁面には、富士登山をイメージできるような映像を見ながら、疑似登山体験が可能</p>
キーワード「噴火と遥拝」	古来、富士山麓では、富士山に対する展望を意識して集落や祭祀の場が形成されていました。8世紀から9世紀頃、人々は度重なる噴火を、火の神「浅間大神」の怒りと考えました。それを鎮めるために山麓から山頂を仰ぎ見て崇拝する「遥拝」の習慣が生まれ、各地に遥拝所(このコースでは、山宮浅間神社)が設けられました。
移動手段例	マイカー/周遊バス

webサイトにおけるモデルコース紹介の例 (静岡県)



旅行会社向けモニターツアー